

# 21世紀 do tank 発

山梨総合研究所 河住圭彦  
主任 研究員

世界遺産といえは、来年5

6月に世界文化遺産登録の  
結論が出る富士山のことを思  
い浮かべる人が多いだろう。  
だが県内関係でもう1カ所、  
世界遺産化へ向けた活動を続  
けている地域があることは意  
外に知られていない。山梨、  
長野、静岡の3県にまたがり、  
日本有数の名峰の数々を連ね  
る南アルプスである。

3県の関係10市町村が07年  
に推進協議会を設立し、関係  
機関への要望や学術研究を進  
めるなど地道に活動。今年5  
月には世界自然遺産化へ向け  
てのステップとして、ユネス  
コ・エコパーク登録を推進す  
る方針を固め、申請へ向けて

動き出している。  
そんな中、南アルプス市と  
富士川町、身延町、早川町で  
つくる「南アルプス周遊自動  
車道整備促進期成同盟会」が  
「南アルプスの世界自然遺産  
化に向けての周辺整備に関す

る構想調査報告書」をまとめ  
た。南アルプス周遊道とは、  
南アルプス市芦安地区と早川  
町奈良田地区を結ぶ新道路の  
こと。報告書は、芦安地区と  
早川町を世界自然遺産とその  
前段階としてのエコパークに

ふさわしい価値と魅力を持っ  
た地域に再構築するため、周  
遊道路が不可欠だと論じてい  
る。

貴重な自然を確実に守る世  
界遺産に対し、エコパークは  
保全と利用の調和を自指すの  
と見る向きが強い。だが、エ

路がつながる芦安、奈良田周  
辺は緩衝地域として、自然環  
境保護と地域振興を両立でき  
るという考え方である。

芦安地区や早川町は、山あ  
いの不便な過疎高齢化地域だ  
と見る向きが強い。だが、エ

## 道路整備とエコパーク

が特徴。世界遺産と同様に自  
然を守るべき部分は核心地域  
とし、その周囲に調査研究や  
観光に活用できる緩衝地域、  
自然と調和した産業を積極的  
に推進する移行地域を設定  
し、活用が図られる。周遊道  
による持続可能な施設管理、

エコパークの観点から見ると、  
南アルプス山岳地域を生かし  
た登山観光、貴重な動植物・  
地質などの調査研究、環境保  
護に関する学習、豊かな水源  
を利用した小水力発電の導入  
だ。

数多い砂防ダムや治山工事現  
場を活用した防災学習など、  
限らないポテンシャルを秘め  
た地域だと分かる。

公益社団法人「県建設技術  
センター」の基礎調査報告書  
によると、周遊道路は距離約  
37のトンネルを含む延長約  
5のルートが想定され、事  
業費は約75億円を見込む。12  
月1日現在、芦安地区の人口  
は378人、早川町は122  
3人であり、生活道路として  
の費用便益は低い。しかし、  
エコパークや防災、水力発電  
の維持管理のための道路とし  
てはどうか。今後の論  
議に興味を持たれるところ  
だ。